

# ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2015年9月

## ISO/TC 61/SC 5(物理・化学的性質)分野における日本の規格開発の状況

ISO/TC61/SC5 は、プラスチックの物理・化学的性質の試験方法に関する規格の制定・改正を担当し、現在、管理下に 90 の規格がある。TC61/SC5 の国際議長はスイスが、国際幹事はドイツ(DIN)が担当している。SC5 傘下で活動中の作業部会 (WG) を表.1 に示す。

表.1 TC61/SC5 の傘下の WG

WG	幹事国	名称
5	ドイツ	粘度
8	ドイツ	熱的性質
9	イギリス	レオロジー
11	オランダ	分析手法
22	日本	生分解性プラスチック
23	アメリカ	バイオベースプラスチック

\*SC5 の幹事国：ドイツ

TC61 の年次会議が毎年開催され、そこでほとんど全ての SC 及び WG の会議が開催され、審議が行われる。日本からは毎年多数 (50~60 人) のメンバーが参加している。

昨年 2014 年は 9 月 22 日~9 月 26 日に米国ハワイのホノルルにて年次会議が開催された。2015 年度の開催地 (ホスト国) が容易に決まらなかったが、10 月 5 日~10 月 9 日にインドのニューデリーにて開催することが漸く決定した。

SC5/WG22 のコンベンナーは日本が取っており、SC5 全体に対しても日本の寄与は大きい。日本提案の規格開発を中心に、以下に WG 別にこの一年の進捗状況 (昨年の本誌 8 月号以来) 及び今後の取り進めについて報告する。

### 1. 粘度 (WG 5)

ISO 2555 (液状又は乳濁状樹脂のブルックフィールド形粘度計による粘度の測定) を改正すべく、昨年 2014 年のホノルル会議にて日本より提案した結果、NP 投票に進むことが承認された。NP 投票を行い、結果を本年度の TC61 ニューデリー会議にて審議し、進捗を図る予定である。

### 2. 熱的性質 (WG 8)

日本提案の温度変調 DSC に関する規格案件の 5 部構成のうち、「第 1 部：通則」が NP 投票にかけられ、投票結果についてホノルル会議にて審議された。その結果、開発案件として承認され、次段階の CD 投票に進むこととなった。現在、既に CD 投票 (CD 19935-1) は終了しており、賛成多数の結果を得ている。投票結果について本年度の TC61 ニューデリー会議にて審議し、次段階 (DIS 投票) への進捗の承認を得る予定である。また、第 2 部以降の規格案についてもラウンドロビンテストの実施及びワーキングドラフト (WD) の作成を計画している。

### 3.レオロジー (WG 9)

昨年のホノルル会議にて、日本より「一定昇温法による流動特性の求め方」の予備提案を行い、NP投票 (NP 20374) に進めることが承認された。本年度のニューデリー会議の前に NP投票を行い、結果を同会議にて審議し、テーマの承認及び次段階への進捗の承認を得る予定である。

### 4. 分析手法 (WG 11)

「MALDI-TOF-MSによるポリエチレングリコール誘導体の平均分子量及び混合比の求め方」について、NP投票を実施した結果、テーマ承認に必要な積極賛成国5か国を得ることができなかった。そこで、オランダ及びタイと交渉し、積極賛成国に加わってもらい、ホノルル会議では、テーマ承認及び次段階 (CD投票) への進捗に漕ぎ着けた。現在、既に CD投票 (CD 19929) は終了し、賛成多数の結果を得ている。ニューデリー会議にて次段階 (DIS投票) への進捗の承認を得る予定である。

### 5. 生分解性 (WG 22)

現在3件の「水又は海水中における嫌気生分解度の求め方」に関する規格案が DIS投票中である。その3件は次の通りである。「海水/砂状堆積物境界での嫌気生分度の求め方」は CD投票を経て、ホノルル会議で DIS投票 (DIS 18830) に進むことが承認された。「海水/砂状堆積物境界での非浮揚プラスチックの嫌気生分度の求め方ー発生二酸化炭素の解析」は NP投票を経て DIS投票 (DIS 14853) への進捗が認められた。また、ISO 14853「水系嫌気生分解度の求め方ー生成バイオガス測定法」は修正のため、DIS投票を行うこととなった。

### 6. バイオプラスチックの試験方法 (WG 23)

「バイオベース度の求め方」(ISO 16620 シリーズ) は各国の意見により進捗が紆余曲折していたが、漸く日本提案の「第1部：総則」、「第2部：バイオベース炭素度の求め方」及び「第3部：バイオマスプラスチック度の求め方」については、DIS投票で承認され、ホノルル会議で直接 IS発行が決定された (既に2015年4月に発行済み)。また、「第4部：バイオベース度の求め方」及び「第5部：バイオベース度等の宣言」は、各々CD投票、NP投票の結果がホノルル会議で承認され次段階に進んでいる (DIS 16220-4, CD 16620-5)。

以上